

Title	岩田暁一教授退任記念号の刊行に際して (岩田暁一教授退任記念号)
Sub Title	In Honour of Professor Gyoichi Iwata
Author	堀田, 一善
Publisher	
Publication year	1999
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.42, No.5 (1999. 12) ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19991200-00686040

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

岩田暁一教授退任記念号の刊行に際して

慶應義塾大学商学部教授岩田暁一先生のご退任記念号の刊行に際し、一言ご挨拶を申し上げます。

永年にわたって商学部の発展のためにご尽力をいただいていた先生方のうち、三田1名、日吉5名の、合わせて6名の先生方が1999年3月末日をもちましてご停年を迎えられ、学部を去られることになりました。そのうちのお一人が岩田暁一先生であります。

岩田先生は、1956年3月、慶應義塾大学経済学部をご卒業になり、翌57年4月に同大学大学院経済学研究科に進まれて、59年3月に同修士課程を、62年3月に同博士課程を修了されました。

この間、先生は、大学院経済学研究科博士課程に進学された1959年4月には、慶應義塾大学工学部管理工学科の助手に任用され、65年4月に、創設9年目を迎えようとしていた商学部に助手として転籍されました。以後、1966年4月には助教授、73年4月には教授に昇進され、75年に経済学博士の学位を取得されて、今日に至っておられます。

また、先生は、1970年から1年間、アメリカのイエール大学へ訪問研究員としてご留学され研鑽を積まれたほか、1986年には、ハーヴァード大学訪問教授として、再びアメリカでご研究に従事されました。

こうした先生のご経歴を振り返ってみますと、先生が商学部で研究・教育の両面でご活躍されてきた年月は、経済白書がそのサブタイトルで「もはや戦後ではない」と謳い上げた時代から、高度経済成長期を経て、2度にわたるオイル・ショックやそれに続く低成長の時代、さらには、その後の東西冷戦構造の終焉に伴う新しい社会的、政治的あるいは経済的規範の模索が続く今日まで、幾多の課題が次々とわれわれの前に現れた年月でありました。

他方、この時代はまた、折りしも、経済諸科学の分野で、これまで展開され蓄積されてきた推測的知識の経験的妥当性を問う試みが、データの収集・分析方法の発展に導かれて展開されるようになった時代でもありました。われわれ人間が経験的出来事を前にして、原則的に、思弁的かつ論理的に構成する知識成果の経験的性格を、つまり、われわれが理性の営みを通して、われわれの身体の外に実在化させる世界、すなわち理論的世界の实在的性質を判断するための経験的研究が長足の進歩を示してきた時期であったとも言えましょう。その意味で、この時代は、経済諸科学の分野にあって、われわれの自由な思索を刺激する拍車としての、また同時に、われわれの思索に対する

嚮としての経験の持つ意義が、はっきりと自覚されるようになった時代であったとも言えるかと思えます。

岩田先生は、これら理論の経験的性質をいかにして確保するかという問題の重要性を逸早く認識され、今日確固たる地歩を築いている実証的な経済分析に不可欠な、統計的方法の精緻化およびその応用研究に従事されてまいりました。もちろん、ここで、この分野における先生のご業績のすべてを網羅することは出来ませんが、先生がご専門とされてきた、これらの分野における主要なものだけを数えても、8冊に上る著書・訳書等を公にされ、50点を超える主要論文を世に問うてられました。

これら主要なご業績は、既にご紹介申し上げましたように、実証的な経済分析のための方法論的基礎の確立と精緻化、そしてそれら方法を援用した応用研究に関するものであり、その中には、『経済分析のための統計的方法』、『寡占価格への計量的接近』、あるいは『先物とオプションの理論』など、経済分析における先端的分野の諸問題を扱ったものが数多く含まれており、期学にあって、学術的に極めて高い評価を獲得された輝かしいご業績であったことは周知のところかと存じます。とりわけ、先生が1974年に公刊された『寡占価格への計量的接近』に対しては、同年、慶應義塾賞が授与されたばかりでなく、公刊後、数年を経た81年にも東京海上各務記念財団賞が授与されております。

こうした社会的に高い評価を獲得されたご業績を携えて、先生は商学部における統計学ならびに計量経済学を中心とする研究・教育活動に多大の力を尽くされてこられたばかりでなく、塾内において、永年にわたり慶應義塾大学産業研究所の発展に尽力されてきたことはよく知られているところであり、とりわけ93年から97年まで、所長として後進の研究を指導され、慶應義塾の実証的経済学の基礎固めに多大の貢献をされてまいりました。その他、塾外でも、例えば日本経済学会、日本統計学会、日本ファイナンス学会その他において、指導的な役割を果たしてこられたと伺っております。

初めにも述べました通り、先生は、この3月末をもちまして商学部における研究・教育の第一線から身を引かれることになりました。いかに義塾の規程のなせるところとはいえ、先生から直接ご教授いただく機会を得ることが、今後、少なからず難しくなるであろうことを考えれば、誠にお名残惜しい限りに存じますが、どうか、これからも商学部を暖かく見守って下さることを、そして、時に応じてご指導ならびにご鞭達下さることをお願いし、併せて、岩田暁一先生の一層のご健勝をお祈りして、簡単ではございますが、ご退任記念号のご挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。

1999年9月

前商学部長 堀 田 一 善